【抄録原稿　書式１】

第 55 回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会
第 18 回日本精神保健福祉士学会学術集会
# 抄録原稿（提出用規定書式）

1）演題名（サブタイトルがある場合は「～」を前後に入れること）

ろう俳優による演劇を取り入れた聴覚障害者のためのメンタルヘルス学習会（日本財団助成事業）

2）発表内容（該当に☑　※複数も可）

☑実践報告　☐調査研究　☐文献研究　☐本協会または都道府県協会事業報告

3）代表発表者、共同発表者（抄録原稿に掲載する順番に記載）

| | | 氏名 | 所属機関名（※） | 都道府県 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 代表発表者 | 舘脇　千春 | （一社）日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会 | 東京都 |
| 2 | 共同発表者 | 稲　淳子 | （一社）日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会 | 東京都 |
| 3 | 共同発表者 | | | |
| 4 | 共同発表者 | | | |
| 5 | 共同発表者 | | | |
| 6 | 共同発表者 | | | |
| 7 | 共同発表者 | | | |
| 8 | 共同発表者 | | | |
| 9 | 共同発表者 | | | |
| 10 | 共同発表者 | | | |
| 11 | 共同発表者 | | | |
| 12 | 共同発表者 | | | |
| 13 | 共同発表者 | | | |
| 14 | 共同発表者 | | | |
| 15 | 共同発表者 | | | |

（※）勤務先名称における法人名等は、抄録集等の紙面の都合上、削除させていただくことがありますことをご了承ください。

【抄録原稿　書式２】抄録原稿本文

## Ⅰ　はじめに

現代は自殺、ひきこもり、いじめ、不登校、虐待、家庭内暴力などンタルヘルスの問題が背景にあると思われる事象が増えており、一般の市民を対象としたメンタルヘルスに関する学習や理解のための啓発普及事業は各自治体等主催で開催されてきた。しかしながら手話通訳や要約筆記等の情報保障が整備された聴覚障害者（以下、聴障者）のための学習会は少ない。また聴障者間においても精神障害に対する偏見や誤解が多く、当事者が深刻なニーズを抱えていても助けを求める声をうまく伝えることができず、多様なコミュニケーション特性を持つゆえにその存在の理解がされにくい。このような状況から手話をコミュニケーション手段としている聴障者には目で見てわかる学習会が必要と考え、聞こえない俳優による手話を用いた寸劇（オムニバス形式）を取り入れた「聴障者のためのメンタルヘルス学習会」を企画した。これまでに全国各地の聴障当事者団体及び関係者・団体の協力を得て、15 都府県にて開催している。以上をふまえ、2015 年度～2018 年度までに開催した実践内容とその効果及び課題を報告したい。

## Ⅱ取り組みの内容

### １　概要

本学習会は、聴覚障害者または手話のできる社会福祉士と精神保健福祉士の集まりである（一社）日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会（以下、当協会）が企画し、日本財団助成「全国聴覚障害者相談支援事業『聴覚サポートなかま』」として活動した個別支援事例の内容を基に自身も聴覚障害である精神保健福祉士（以下、PSW）が脚本構成を担当した。台本は聴覚障害医師とろう学校校長経験のある脚本家にお願いし、聞こえない特性を丁寧に描写している。この台本は「アルコール依存症」と「パーソナリティ障害」で苦しまれた当事者の了承を得て、実際の支援経緯・状況を説明し個人情報が特定されないよう一部を脚色しながら「青空が見える～闇の向こうに～」をタイトルとしている。

学習会のプログラムは、企画趣旨の説明（15 分）、役者（ろう者）2 名による演劇（約 70 分）、PSW の手話によるミニレクチャー「メンタルヘルスを学んでみよう」（30 分）、参加者とのフリートーク形式（30 分）の順に進めて実施した。これは地域の聴障当事者団体の協力を得て会場を借りて開催し、精神疾患または精神障害を抱える聴障者の状況を広く社会に知らせることにより、その存在と情報保障の必要性についての理解を深めてもらった。以下、要綱の一部を記す。

１）開催場所　：地域の聴覚障害当事者団体及び手話関係者団体に協力いただいた地域
２）対象者　　：聴覚障害者及びその家族、手話・要約筆記関係者、支援関係機関・者及び関心のある方。
３）定　員　：地域の状況、会場規模による（およそ100名～200名）
４）基本プログラム：講義、寸劇、フリートーク
５）その他：精神に関する相談コーナーを設け、聴覚サポートなかま派遣事業の活用を図る

### ２　開催地域（参加者数（地域によってはおおよそ数））

これまでに開催した地域は、2015 年度に高知（102 名）、香川（60 名）、秋田（110 名）、青森（102 名）、2016 年度は群馬（186 名）、滋賀（98 名）、大阪（600 名）、沖縄（102 名）、2017 年度は大分（156 名）、鳥取（112 名）、富山（130 名）、東京（302 名）、2018 年度は旭川（130 名）、鹿児島（150 名）、山口（96 名）にて開催。2019 年度は釧路、広島にて開催実施予定。

## Ⅲ. 効果と課題

### １　効果

聴覚障害は中途失聴、難聴、ろうと様々な聞こえの特性からコミュニケーションも多様に広がっており、支援の現場では対話の難しさや関わりの築きの困難さが課題になっていた。そのような状況の中、本学習会は全国の 15 都府県で開催し、参加者は延べ 2400 名を超える。演劇では聞こえないことから精神疾患にかかってしまい医師や支援関係者等との関わりが十分にとれないまま苦しんでいる聴障当事者の状況を役者に丁寧に演じてもらった。さらに PSW による手話のレクチャーを行い、参加者からは「大変わかりやすかった」、「いかに精神障害に対する差別や偏見、誤解をもっていたか知らされた」、「見下していたアルコール依存症の親に対する見方が変わり考えさせられた」等の感想が多く寄せられ、もっと学びたいと意欲的になった地域では学習会を企画し、当協会への講師依頼が増えている。そして、より多くの人達への普及理解促進を目的に、当協会は本学習会の記録映像をＤＶＤ化した。現在はライブラリー機能を持つ全国の聴覚障害者情報提供施設に提供し活用をお願いしている。早速に宮城県聴覚障害者センターではＤＶＤ鑑賞会を開催し精神保健に関するミニレクチャーを開いた。結果的に、目で見てわかる学習会開催の意義と効果は大きかったと考える。

### ２　今後の課題

本学習会は助成事業のため 2019 年度に終了することから、「目で見てわかる学習会」の継続実施が課題となっている。当協会は本事業の調査結果を分析し、今後もより良い方法で継続実施できることはないか、多くの専門職の方の知見をいただきながら、次なるソーシャルアクションに向けた活動を考えていきたいと思う。